



焼きあがった樫炭。
上質な炭は叩くとカンカンと良い音がして、火持ちがとて良いそうです。

炭焼きのおかげで
つながって、さらに
ひろげて行く為に。

炭焼き窯の修復から始まった活動は、苦難の連続。地元の中尾保男さんに炭焼きの基本を習いながら、炭にする樫の木を切り出しや、窯入れ作業など何度も怒られながらも、やっと上質な炭を焼けるようになってきています。今では、この活動に有田地区の方々が全面的に協力してくれ、地域のつながりが深まっています。

今後、有田地区に人を呼び込むために、しいたけや芋ほりなどの体験メニューを充実させて、将来的には農家民泊が有田地区でできるようにしていきたいと考え、先進地の安心院に研修に行き、少しずつ準備を進めているそうです。



3 炭にする樫の木 4 炭焼き窯。炭にする樫の木は窯の中に立てて入れます。窯が冷えている場合は、炭が出来上がるまでに2、3日かかるそうです。
5 空気が漏れているところは赤土を練ってふさぎます。



天気の良い日は山口県が見える絶景ポイント。夜は中津市の夜景がきれいです。

グリーンツーリズム

有田発

KOGE



有田地区炭焼き保存会

有田地区に残る炭焼き窯を復活。

大平支所前の県道102号線を東上方面へ上り原井に抜けるトンネルの前を右向きに上ると有田の集落があります。
この地域で今年度から地域づくり活動を始めた有田地区炭焼き保存会の皆さん。代表の中尾健さんに活動について取材をしました。



有田地区の景色は
正に地域の宝。

中尾さんは中津市出身で昨年6月に奥さんの実家である有田に家を建て、上毛町の町民となりました。有田を選んだ理由はすばらしい景色。中津市を一望できる大パノラマに加え、空気の澄んだ日には山口県や姫島まで見えるこの景色は正に地域の宝。

地域づくり活動事業
を開始！

現在、教員をやっている中尾さんは以前から何かグリーンツーリズムにつながる取り組みをやってみたいと考えていたそうです。その時、地域づくり活動事業の話を知り、有田に残る炭焼き窯を復活させ、炭づくりの体験を通して地域を越えた交流が芽生えるようにと活動提案を行いました。地域づくり活動として認定されました。

1 有田地区炭焼き保存会の代表中尾健さん 2 宇佐市の池田先生に書いてもらった看板
※グリーンツーリズム 都市住民が農家などに訪れて農作業を体験したり、その地域の歴史や自然に親しむ余暇活動

地域づくり
クローズアップ

訪れる事が多く、東上を第2の故郷と感じていますと話してくれました。

「と話してくれました。行橋在住のメンバーの方は、練習やコンサートで東上に訪れる事が多く、東上を第2の故郷と感じていますと話してくれました。」

貴村さんは「新しくなった集会所でのコンサートにたくさんの方が協力してくれて、感謝の気持ちでいっぱい。また来年も集会所で楽雁コンサートを開催したい」と話してくれました。

コンサートは、地域の方々がたくさん参加協力できるように工夫され、1部「東上地域の皆さんの部」では長年東上小学校講堂に慣れ親しんできた東上地区の方々による日本舞踊やフォークダンス、詩吟の披露などが行われました。司会役で協力した東上区会会長の峯正弘さんの進行は絶妙で、参加者にインタビューして笑いを誘うなど会場を和ませてくれました。

2部「築上東Music-Lovers」の部は天地人オーブニング曲から始まる全11曲、東上小学校講堂の面影が残る集会所に心地よい音楽が響きわたり、曲が終わるたびに会場からは大きな拍手が送られました。最終曲「水戸黄門」が終わると会場からはアンコールの声と手拍子。アンコールを予定していなかった代表の貴村和恵さんは、慌てて譜面を取りに控室に走り、暴れん坊將軍のテーマ曲でアンコールに応えました。

音楽を通じて光の輪が
少しづつ広がっていく。

築上東 Music-Lovers

東上発
KOGE
地域の光



5 楽雁コンサートを企画した築上東Music-Loversの皆さん。コンサートを通じて東上地区の交流が盛んになることを願い、全11曲を演奏しました。6 築上東Music-Loversの演奏で踊るフォークダンスグループの皆さん。素敵な衣装で華やかに踊ってくれました。7 日本舞踊「山河」を舞う中野美枝子さん(東上)。来年の盆踊りで「上毛万年音頭」をみんなで踊れるように練習するそうです。8 日本舞踊「佐渡の恋唄」を舞う原口日出子さん(東上)。お年はなんと90歳。音楽に合わせて力強くしなやかに伸びた手や、やわらかく動く手首に見とれ、とても90歳とは思えない優雅な舞でした。9 1部の司会進行役を任せられた峯正弘さん(東上) 10 昭和47年から活動する詩吟グループが「青の洞門」を披露



1 会場に設置された竹灯籠 2 よらんかいのメンバー 3 浮かび上がった「すがり」の火文字
4 花火の演出を準備するよらんかいの皆さん

生まれ変わった東上集会所に
地域の光が灯されました。

「第6回楽雁コンサート」が新しくなった東上集会所(旧東上小学校講堂)で開催される記念に光を灯そうと「よらんかい」のメンバーが立ち上がりました。

よらんかい

幻想的な光の演出で
コンサートを盛り上げる。

11月14日(土)に、「第6回楽雁コンサート」が新しくなった東上集会所(旧東上小学校講堂)で開催されました。開催前によらんかいの皆さんの協力により、駐車場に竹灯籠の演出と花火が行われ、駐車場に「すがり」の火文字が浮かび上がると会場は幻想的な雰囲気にも包まれ、約100名の来場者の方々から拍手が送られました。



4 英彦山山頂を目指して険しい山道を登る参加者
5 英彦山山頂上にたどり着いた参加者は、「英彦山山頂」の木柱の前で記念撮影
6 無事に完歩した54名1人ひとりに満行証が手渡されました。

地域づくりの交流の輪がまたひとつ。

初日の朝8時に上毛町役場に集合した参加者の皆さんは、町長の激励の言葉を胸に3台のマイクロバスに乗って英彦山青年の家に向いました。到着後さっそくお弁当をリュックに背負い英彦山頂上(上宮)を目指しざ出発。延長5kmのコースだったので気軽に考えていましたが、途中にくさりにつかまって登る箇所もあり予想以上に険しく、同行した役場ボランティアスタッフは疲労で膝がガクガク笑っていました。予定より少し遅れて英彦山頂上に到着した皆さんは、澄んだ空気のもと、お弁当を広げて至福の時を過ごしました。下山して英彦山青年の家に着ると添田町の寺西副町長が

出迎えてくれて、参加者に英彦山神宮のお神酒とお守りのプレゼントがあり一同は大喜び。実行委員会の取り組みにより添田町との交流が芽生え初めていることを実感する出来事でした。夕食は鍋を囲んで懇親会。別府市から参加の渡辺高幸さんに参加した理由を尋ねると、昨年参加した友だちから紹介されたそう、修験道トレッキングの企画を通して少しずつ上毛町の知名度も向上しているなど感じました。翌朝、7時半に青年の家玄関前に集合した参加者は、いよいよ松尾山に向けて長い道のりを歩き始めました。国道500号から野峠を経由し国道496号からは犬ヶ岳南山腹を縦走し、中津市耶馬溪町津民から豊前市轟、松尾川内、上毛町に入り雁股

山を通過してゴールの松尾山三社神社を目指すルート。実行委員会会長の福本利三さんを先頭に、紅葉が少し残る山道を一步一步進み、昼食場所の津民に11時過ぎに全員が到着しました。昼の休憩が終わり残りの道のりを歩き始めてまもなく、心配していた雨が降り始め、参加者はカッパを着てゴールの松尾山を目指しました。ゴールに先回りして到着を待っていると、福本さん先頭に元気な参加者の姿が見えはじめ、三社神社に続く最後の階段を登りきり、山岳ルート33.3km、約8時間半の難行を54名の方が成し遂げました。上毛町役場での閉会行事では、福本会長から「雨という試練を天から与えられました、これも修行。この先、辛いことや苦しいことにも、諦めずに歩き通した不撓不屈の精神を思い出し、勇猛果敢に乗り越えてください」と満行証が一人ひとりに手渡され、参加者からは、来年もぜひ開催してほしいと拍手が沸きました。



完歩! 33.3 km



1 松尾山三社神社前で完歩した皆さんと記念撮影
2 出発前に町長から激励される参加者の皆さん

「松尾山修験道トレッキング」で山岳ルートを54人が完歩

松尾山のお田植祭を町外に宣伝し上毛町の知名度向上を図ることを目的に、かつて修験道場同士の交流のあった英彦山と松尾山の間33.3kmを歩き、山伏たちが行った峰入を再現した「松尾山修験道トレッキング」が11月21日(土)、22日(日)の2日間の日程で行われました。

松尾山修験道回峰行実行委員会

57名の峰入り体験。

今年松尾山から英彦山に歩いた昨年のルートを反対にして企画した実行委員会の皆さん。当日までに下見のためコースを歩いたり、町内の山道を歩き練習をするなど参加者が安全に歩けるように入念に準備をしてきました。今年の参加者は合計57名で、北九州市から別府市に至る広範囲の方々が参加しました。参加者の内21名は昨年も参加した方々で、昨年のトレッキングが楽しかったためまた参加した方が多かった様です。



松尾山をモチーフにしたキャラクター「松尾さん」